

2022年度事業報告

2023年 3 月 31 日
公益財団法人 日本セーリング連盟

2022年度事業報告

公益財団法人 日本セーリング連盟

総務委員会 委員長 浅田 素之

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
事業1)公益財団法人としての組織運営への対応【基本方針】1.8.9【重点施策】II(h)(g)					
将来方向を見据えた諸規程・基準の継続的見直し関係委員会との連携		通年	JSAF事務局	ガバナンスコード対応を基準とした、公益財団法人として相応しい主要会議体の運営と、それを実行する運営体制の整備・強化を実施。引き続き、諸規程の見直しと関係委員会との連携を図る	Yellow
コンプライアンス研修の実施		2023/2/1	オンライン	JSAFコンプライアンス研修を予定通り実施。次年度に向けて、オンライン研修など、効率的な開催方法を検討する	Green
ガバナンスコードへの対応		通年	JSAF事務局	スポーツ団体ガバナンスコードへの対応を実施した。(ハークス法律事務所による支援継続)。利益相反規程の運用方法検討、加盟団体規程制定へ向けた検討、人材採用・育成計画作成へ向けた検討、等に、引き続き取り組む	Green
定期表彰		2023/1/1	JSAF事務局	全国代表者会議、総会での表彰式を初めて実施した。次年度に向けて、コンパクトな表彰式開催の検討、EDI、国際的な活躍に関する表彰等、表彰規程の見直しを図る	Green
事業2)会員管理新システム運用を通じた加盟・特別加盟団体・会員向けサービスの継続的向上【基本方針】1.8.9【重点施策】II(h)(g)					
会員管理新システム運用を通じた加盟・特別加盟団体・会員向けサービスの継続的向上		通年	JSAF事務局	JSAF組織活性化及び財政健全化の観点から継続対応 ・会員増強PJ検討結果連盟会員規程への反映、及び会員管理システムへの反映検討	Green
事業3)JSAF公認・後援(加盟・特別加盟団体主催)行事における適正運営の継続的実施【基本方針】1.8.9【重点施策】II(h)(g)					
加盟(特別加盟)団体が主催するレース等の行事の公認・後援・安全管理対策の徹底主催者保険の付与		通年	JSAF事務局	JSAF公認大会に対する主催者保険の付与徹底 安全管理の対策の徹底を目的として、事故情報のJSAF内共有をはかる	Green
事業4)JSAF事務局業務の効率化の推進【基本方針】1.8.9【重点施策】II(h)(g)					
会議のペーパーレス化 オンライン会議の推進		通年	JSAF事務局	引き続き実施	Green

財政委員会 委員長 松田 一雄

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
1. 適切な支払・立替手続きの確保	III(h)(g)	通年	基本的にリモートでの会議を中心とした活動を想定	・支払・発注の申請の内容確認については、通年を通じて迅速な確認の実施に努めた ・期中のJSAF事務局事務員の増強もあって、会計経理事務の業務改善は前進した ・期中複数の委員長交代があるなか、源泉徴収手続きや添付された証憑については、都度各委員会との確認を行うことで、適正な事務を確保することができた ・2023年は定元の収支状況についてのさらなる注視が課題と認識	Yellow
2. 適切な予算執行と会計報告の推進と管理	III(h)(g)	通年	基本的にリモートでの会議を中心とした活動を想定	・予算・決算作業に際しては、JSAF事務局と連携した各専門委員会とのコミュニケーションを通じて、情報の整理と透明性の向上に努めた ・JSAF事務局と連携した経理会計に関する帳票類の整備は未済であり、2023年度も引き続きの課題と認識 ・2021年に整理した課題の優先順位については、必要な見直しを行いつつ、経理・財政面における体制整備を引き続き促進する	Yellow
3. 健全な財政基盤の確立	III(h)(g)	通年	基本的にリモートでの会議を中心とした活動を想定	・経営財政基盤や障がい者関連事業等の助成金等の収入ソースが拡大されたのはプラスであった一方、企業及び個人からの寄付金や協賛金の新たなソースは発掘できなかった点は、2023年以降の収支状況への課題を醸成した ・手元金の取り崩しに頼るままで、使途の限定されない収入ソースが拡大しない場合、JSAFの事業運営に支障が生じることにもなりかねないため、収支・キャッシュ状況についてはより厳格なモニタリングを行う必要ありと認識	Red
4. 中長期的な事業推進を前提とした事業収支管理と会計処理の適性確保	III(h)(g)	通年	基本的にリモートでの会議を中心とした活動を想定	・各委員会が推進する事業内容が、JSAFのVisionや重点施策に基づき計画され予算化されているかとの観点からの、透明性の高い予算・決算配分の妥当性の確保は進歩 ・収支相償の原則にコンプライアンスを一方、JSAFの事業の持続性を確保するための、財務面でのガバナンスの向上は、2023年も引き続き課題と認識	Yellow

事業開発委員会 委員長 平松 隆

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
JSAFグッズのネットショップ・システムの新規構築	【基本方針】2.5.6	7月	新規開設のネットショップJSAFホームページ	グッズ購入時の手間の簡略化に伴う会員サービス向上と収益事業売上げアップを図り、当初の目標以上の成果を上げられた。今後はJSAF以外への販路拡大と売れる新商品の開発と導入が課題	Green
JSAFグッズの拡充	【基本方針】2.5.6	4月から年間を通して	新規開設のネットショップJSAFホームページ	JSAF会員・一般セーラーへのJSAFの認知度と親近感のアップ	Green
企業とのコラボ商品制作	【基本方針】2.5.6	4月及び9月	45RPM店頭	一般セーラーへのJSAFの認知度と親近感のアップ	Green
カレンダーの制作・販売	【基本方針】2.5.6	10月から	新規開設のネットショップJSAFホームページ	JSAF会員・一般セーラーへのJSAF及びセーリングの認知度と親近感のアップ	Green

広報委員会 委員長 森 勲

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
*広報委員会委員長交代(2022/6/18付け)を以て2022年度委員会運営方針を変更、体制方針変更により、事業への取り組み方についても変更があります。					
委員会運営					
・委員会人的・コストストラクチャー改善	5	2022/7月～		人員再配置及びHP技術的改善実施により、業務委託費を年間174万円を削減しつつ、スポーツ報道メディア・HP・SNSにおいて露出・リーチ増を実現。	Green
・広報基礎業務(メディアクリッピング、効果測定、レポート)の導	5	2022/7月～		コミュニケーション戦略立案の基礎として、HP、SNS、メディア露出の効果測定を毎月実施しPDCA習慣を定着させることに取り組んでいる。	Yellow
・主要大会のカレンダーライズ	5	2022/7月～		オリ強連だけでなくその他各種の日連選手権、主要インショア・オフショア大会情報をカレンダーライズ化。	Green
・オリ強と、広報体制見直し	5	2022/7月～		オリ強の広報ニーズ洗い出し(新強化プログラムの周知・タレント人材の募集)、五輪キャンベーンに向けた広報体制の整備。	Yellow
・危機管理	5	2022/8月		2022/8/1等、望月常務の方でメディア対応いただきました。	Green
JSAFホームページ					
・Fun Topページの動線改善	5	2022/7/11		月次レポートより月間平均7000PV中約半数が「新規」ユーザーであることが判明、まずは応急処置に当ページの動線改善。	Green
・Fun Topページの情報発信強化	5	2022/7/11～		同ページの更新頻度を上げ、SEO効果狙う。	Green
・メンバーズページの情報発信業務スリム化	5	2022/8月～		WordPress化により外注業務をスリム化、コスト削減。	Green
・Online J-Sailingのコンテンツ拡充、オウンドメディアとしての活用	5	2022/10月～		Online J-Sailingのオウンドメディア化を図りコンテンツの拡充に取り組み始める。J-Sailing紙版廃止及びオンライン化へのスムーズな移行を図る。引き続きオウンドメディア化のため新規ページ立上げ等の業務遂行する。	Yellow
公式SNS					
・NFとしての情報発信	5	2022/7月～		NF広報として「当たり前のことを当たり前に」実施、ステークホルダーへの信頼獲得に多少寄与していると思われる。実際各SNSでフォロー約15%増。	Green
・Instagram再開	5	2022/7月～		若者世代向けにインスタグラムの利用を再開、平均1300インプレッション、200エンゲージメント増。	Green
対スポーツメディア					
・世界選手権入賞のリリース発信	5	2022/7月～		強化選手がメダル獲得した全ての世界選手権についてプレスリリース発信、メディア露出実現。 7/15 ユース世界選手権 8/7 29er世界選手権 10/14、10/30 470世界選手権 11/16 Teeno世界選手権	Green
・主要メディアとの関係維持	5	2022/7月～		主要メディアとの関係維持については、こまめな情報提供を実施した結果沖縄や個別取材の実施を取り付けるなど良好。	Green
SDGs/DEI取り組みの情報発信					
・Hana大会の広報後方支援	5	2022/10月		大会広報のサポートとして、大会期間中のバル制作、プレスリリースのJSAFメディアリスト配信、SNS発信支援実施。また大会後のパブリシティ掲載については戦略広報部門で準備中。	Yellow

環境委員会 委員長 大塚 俊朗

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
事業1)環境支援事業					
環境キャンペーン ①全日本大会への環境補助金事業	【基本方針】6 【重点施策】II(c)(g)	通年	各全日本レース開催ハーパー	* 今年度より環境活動を必須条件とし、見える化により活動を強化 * 外部に向けてもSNS等での発信増加 * NFの中での環境活動を先進的に取組んでリーダーシップを確立 * スポンサー企業の支援継続および新規スポンサー企業の開拓を継続	Green
環境キャンペーン ②各地、上記以外補助金事業	【基本方針】6 【重点施策】II(c)(g)	通年	各開催地	* 補助金支給により環境活動の拡充および活性化した。 * 外部に向けてのSNS等での発信を強化できた。 * スポンサー企業の支援継続および新規スポンサー企業の開拓を継続する。	Green
事業2)環境支援事業					
環境イベント企画、参加	【基本方針】6 【重点施策】II(a)(c)(g)	通年	各開催地	* 海洋環境の現状の把握を行った。 * 環境の意識の普及、向上を図った。 * 広くセーラー以外の一般市民も巻き込み環境を切り口にセーリングの普及にも寄与した。	Green
環境啓蒙ツールの拡充	【基本方針】6 【重点施策】II(a)(c)(g)	通年	環境委員会内各開催地	* 環境活動の普及、支援、活性化のためツール開発・活用を進めた。	Green
事業3)環境支援事業					
使い古したセールの有効活用(Workshop、ハング製作販売)	【基本方針】6 【重点施策】II(c)(g)	通年	団体会場、及び各地	* 環境意識の向上、脱炭素化に寄与、JSAFのブランド化、広く一般市民への普及を行った。(団体会場での実施は中止)	Green

レディース委員会 委員長 長田 綾香子

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
チャイルドルーム開設(団体)	【基本方針】2.4.7 【重点施策】II(e)(f)(g)	9月29日～10月4日	稲毛ヨットハーバー	コロナ感染予防のため、団体親の一般来場者のお子さんを預かることはできなかったが、選手のお子さんは事前予約の形をとり預かることができた。もっと早くからインフォメーションする必要があった	Yellow
チャイルドルーム開設(オンラインビューティーク)		10月14日～16日	江ノ島ヨットハーバー	エントリー種目が、ジュニアの種目だけになったため、選手のお子さんを預かる必要がなくなった。役員に向けて、もっと早くからインフォメーションする必要があった	Yellow
第5回レディース委員会主催情報交換会	【基本方針】1.2.4.7 【重点施策】II(a),f,fillm	2023/2/5	葉山港	事前のインフォメーションを十分にこなしたため、より多くの人が参加してくれた。いろいろな立場から女性の歩幅拡大や今、女性が抱える共通の課題などについて考えることができた	Green
マッチングシステムの構築	【基本方針】1.2.4.7 【重点施策】II(a),f,fillp	通年	主にオンライン	関東学連、及び全日本学連に所属する女子学生に、オンライントークや情報交換会の情報を配信して参加を促すことができた。十分に関心を持ってもらうことができ、参加者を増やすことができなかった	Yellow
ハンズ体験試乗会	【基本方針】1.2.7 【重点施策】II(a),f	2023/5/25	若洲ヨット練習場	初心者や暫く前から離れていたヨット経験者に関心を持ってもらいヨットの楽しさを伝えることができた	Green
女性リーダー、コーチの育成	【基本方針】2.4.7 【重点施策】II(e),fillm	通年	オンライン及び対面研修	女性歩幅の拡大、女性スポーツ環境の向上、女性指導者、女性役員への育成に向けた意識改革が大きい図れた	Green

アスリート委員会 委員長 關 一人

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への展開等	達成度評価
JSAF事業へのトップ選手、コーチの派遣		通年	各所、オンライン	各委員会と連携しつつ、必要時に適性を持つ人材を講師として派遣した。(年4回)他委員会との連携を増やし、1回/2月を目標。	Green
アスリートの意見集約			各所、オンライン	NT、ホープ選手などに聞き取り調査をしつつ、JOCアスリート委員の考えを聞きながら、今後のアスリートのあり方、立ち位置を協議。	Yellow

ルール委員会 委員長 増田 照

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への展開等	達成度評価
事業1) ルール関連資料の翻訳・発行【基本方針】4、9					
競技規則であるRRSとWorld Sailing規程の一部、World Sailingの発行する執行規則や、競技規則の公式解釈であるワールドカップ・ワールドフィッシュと規則40解説、Q&Aとラジエースマニュアルなど、World Sailingの発行するルール関連資料とその追加・修正を都度、日本語訳して展開する。		World Sailingからの公開の都度	-	当初目標通り実施。加えて、3件提案したRRS改定(うち1件は2023.11緊急改定)がいずれもWSで認められ、JSAFとしてのセーリング界への貢献を果たすことができた。	Green
World Sailing発行のジャッジ/アンパイア向けマニュアル等とその追加・修正を都度、日本語訳して展開する。		World Sailingからの公開の都度	-	当初目標通り実施し、国内ジャッジ/アンパイアのレベル維持・向上に寄与した。	Green
事業2) 国際ジャッジ・アンパイアの育成【基本方針】4、9【重点施策】III(m)					
国内IJ/IU候補者に海外レース等を経験させるための機会提供支援と渡航費補助を行う。		都度	-	機会を与えることはできたが、コロナの影響もあり渡航希望者はなかった。	Red
アジア諸国のIJ/IU候補者のJSAFが主催する国際大会への来日支援のため渡航費補助を行う。		都度	-	EOW2022が開催されたが、Jury編成への着手が遅かったために、海外IJUを招へることはできなかった。来年度6月開催予定のEOW2023には既に2名の海外(中国・韓国)のIJ候補者をアポイントしており、渡航費補助を実施する予定。	Yellow
国内で開催される国際大会において、その主催団体からJSAFによるジャッジ・アンパイアの推薦枠が与えられた場合に、国内IJ/IU候補者から選考して派遣する。		10月、10月	神奈川、広島	3名のIJ候補者に国内開催国際大会での機会を与えることができた。	Green
JSAFからWorld Sailingに推薦するIJ/IU候補推薦者選定のためのIJ/IU候補推薦委員会を開催する。		7月	オンライン	応募者がなかったため開催しなかった。	Red
JSAFがJ/3ネットとして選任されたWorld Sailingの委員でもある委員2名をWorld Sailing年次総会に派遣する。渡航費全額を実費精算する。		11月	未定	2名のうち1名のみが参加した。1名は個人的な事情で参加できなかった。	Yellow

事業3) ナショナルA級ジャッジ/アンパイア講習会の開催【基本方針】4、9					
A級ジャッジ認定講習会の開催(国体開催予定地など3-4箇所で開催する)。		4月、1月	北海道、佐賀	2回開催し、合計24名の受講者のうち、14名を新規認定した。合格率は過去10年程度の実績と比較して改善してきている。年度末時点でA級ジャッジは216名となった。今年度は開催地が地理的に偏ったので、来年度は全国から参加を得やすい東京または大阪などでの開催も計画したい。	Green
アンパイア更新講習会の開催(海上実技研修を必要とするためアンパイア制大会の機会を利用して開催する。新型コロナウイルスの影響等により前年度開催分も含めて開催機会が十分に確保できなかった場合には、更新期日を超えての追加開催も検討する)。		8月、12月	広島、和歌山	2回の海上実技研修を実施したが、3名の未更新者のうち2名のみを更新に留まった。残り1名に機会を与えるため来年度も更新講習会を2回開催する。	Yellow
アンパイア認定講習会の開催(海上実技研修を必要とするためアンパイア制大会の機会を利用して1-2回開催する)。		12月	神奈川	2名を新規認定した。2名/年度の合格者を得られことは希で、期待以上の成果であったと言える。年度末時点でアンパイアは26名となった。	Green
ジャッジ・クリニックの開催		1月~3月	全国各地8箇所程度、及び、オンライン	B級ジャッジのためのステップアップ・クリニック6回を含め合計12回を全て対面形式で開催し、ジャッジのスキル向上に貢献した。	Green
NJNU実績管理システムの設計・仕様検討		通期	-	NJNU育成マネジメントや大会派遣の公平性の向上、NJNU管理業務負担の軽減等を可能とするWebサービス/DBシステムの設計を当初計画通り進めた。来年度中の開発(外注)を目指して引き続き進める。	Green

事業4) ナショナルB級ジャッジ講習会の開催【基本方針】4、9【重点施策】III(f)					
新規IJU認定講習会と認定試験を実施する加盟団体・特別加盟団体、試験問題と講習補助資料を提供する。認定証発行やデータベース入力など認定管理業務を行う。		加盟団体・特別加盟団体による開催の都度	-	当初計画通り、初級ジャッジを養成する加盟団体・特別加盟団体を支援し、国内レースの質の維持・向上に貢献した。年度末時点でB級ジャッジは318名となった。	Green
事業5) 競技規則の普及【基本方針】2、4【重点施策】III(o)					
指導者・選手向けルール講習会の開催(1月~3月に主に初級選手やその指導者を対象としたルール講習会を開催する)。		1月~3月	オンライン6回	当初計画通り開催した。307名からアンケート回答が得られその分析から、今年度チャレンジした新たな開催形式が受講者のニーズに合っていたとの手応えが得られた。受講者数の把握が難しいことが課題として判明した。	Green
外洋レース関係者(ジャッジ・運営関係者を含む)向けのルール講習会・意見交換会等の実施		都度	全国(主催団体要望会場)	講習会の開催希望が得られなかった。指導者・選手向けルール講習会のプラットフォームを利用するなど、次年度は募集方法を改善して作成した講習資料を活かしたい。	Red
セーリング競技規則(RRS)同付則、連盟規程その他関連規則(WS規定、外洋規則2009含む)及び外洋特別規則等の外洋レース関係規則の周知、支援		通期	-	World Sailing ジャッジ・マニュアルの特に外洋レースに関連する章の日本語訳の改善に取り組むとともに、同マニュアルやレース公示/航海指示書ガイドラインなどを加盟団体への展開するなど、当初計画通り実施し、外洋レースのルール面からの質の向上に貢献した。	Green

事業6) 指導者育成支援【基本方針】2、4					
日本スポーツ協会の認定する指導者資格の更新条件であるJSAF主催講習会等としてルール委員会の主催する講習会を提供し、日本スポーツ協会データベースへの登録業務を代行することで、普及指導者委員会の進める事業を支援する。		都度	-	当初目標通り実施。普及指導者委員会が進める指導者育成に貢献した。	Green

事業7) アンパイア制レースの普及【基本方針】2、4【重点施策】III(f)、III(m)					
加盟団体・特別加盟団体への働きかけによりメダルレースを含むアンパイア制フリーレースやチームレースの計画を促すと共に、アンパイア制大会実施のためのノウハウの提供やアンパイアの紹介などの支援を行う。新たにアンパイア制レース実施大会の継続的開催を計画する加盟団体・特別加盟団体を対象に、チームアンパイアを派遣して派遣費用を補助する。		都度	未定	新たなアンパイア制大会の実施は年度内には得られなかったが、次年度に、従来は通常のフリーレースで実施されていた大会が、次年度アンパイア制で実施される方向で検討が進められている。	Green
アンパイア・クリニックの開催(選手・アンパイアを対象としたアンパイア制レースのクリニックを開催する)。		12月	和歌山	当初計画通り実施。9名の参加を得て盛会、アンパイアのスキル向上に貢献した。	Green

事業8) 外洋艦レース普及支援【基本方針】2、4【重点施策】III(f)、III(m)、III(o)					
外洋艦レースの2028五輪の種目化に向けた活動、ルール・ジャッジ等の面で引き続き支援する。(ショートハンドレース)		5月	和歌山	五輪種目採用を目指した外洋艦レースの第一回大会においてルール面からの支援を実施し、大会の成功に貢献した。今年も継続した支援を期待されており、次年度は派遣費用を計上して継続したい。	Green
外洋艦推進グループの関係組織と連携した現場での普及策の検討(レース・安全・計測)		通期	-	当初計画通り普及策の検討を進め、その1つの成果として、来年度の新規事業として外洋艦レース普及支援事業を策定し、提案した。	Green

ルール委員会の開催					
委員会事業を遂行するために年3回の委員会(オンライン1日x2回、オフライン2日x1回)を開催する。		6月、12月、3月	東京、オンライン、静岡	計画通り実施。	Green

ルール・ジャッジ・アンパイア情報の展開					
ルール委員会WEB、加盟団体・特別加盟団体の代表者のメーリングリスト、及びA級ジャッジのメーリングリストでの情報展開と、そのためのメーリングリストと名簿の保守・管理・窓口業務		都度	-	ルール・ジャッジ・アンパイアに関するJSAFとしての会員サービスを当初計画通り提供できた。	Green

レースマネジメント委員会 委員長 大庭 秀夫

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への展開等	達成度評価
事業1) レースオフィサーセミナー(新規認定 講習・試験)					
NRO認定セミナー 講習・試験を実施する。(JSAF RO規程に基づく措置)	【基本方針】2.4.8【重点背景】I f, g, h, i	11月	東京	AROを対象にしたNRO認定セミナーを1回実施する計画であったが、認定試験後に実技試験を導入すべきとの声を受け、新たな教材・試験問題の編纂を行ったため、新規認定のためのセミナーは実施しなかった。教材編纂会議を行い、進捗状況は例年通りマネジメント委員会に報告した。2023年度は東京会場1回(20人程度の認定を目指す)実施を計画。	Yellow
ARO認定セミナー 講習・試験を実施する。(JSAF RO規程に基づく措置)	【基本方針】2.4.8【重点背景】I f, g, h, i	5回実施	全国各水域	NROを補佐し、水城レベルのレースを主体的に運営し、将来NRO候補を養成するため、AROセミナーを全国5会場で開催する計画であったが、認定試験後に実技のアセスメントを導入すべきとの声を受け、新たな教材・試験問題の編纂を行ったため、新規認定のためのセミナーは実施しなかった。2023年度は3会場(東日本・中日本・西日本 各1会場)で各会20人程度の認定を目指すし、全国60人程度の新規認定を目指す。	Yellow
LRO認定セミナー 講習を実施する。(JSAF RO規程に基づく措置)	【基本方針】2.4.8【重点背景】I f, g, h, i	10回実施	全国各水域	レース運営初級者向けのLROセミナーを全国10会場(各水域1回)で実施する計画であったが、滋賀・兵庫・香川・神奈川の4会場で実施し、105人のLROを新規認定した。	Green
事業2) レースマネジメントクリニック					
NRO更新のための義務講習になっているレースマネジメントクリニックを実施する。(JSAF RO規程に基づく措置)	【基本方針】2.4.8【重点背景】I f, g, h, i	5回実施	全国各水域	レースオフィシャルズを対象にしたレースマネジメントクリニックを5会場で開催する計画であったが、教材内容、実施方法を精査し、2023年度、2024年度で実施することにした。2023年度は、全国9会場で、NRO登録者の1/2の約75人の受講を目指す。	Yellow
事業3) 団体進捗事業					
・団体委員会の研修会にレースマネジメント委員会(国体小委員会)として参加し、開催に向けての準備調整について情報交換をする。		6月の予定	東京	・稲本ヨットハーバーの特性を考慮したレース公示、航海指示書の作成等に協力し、大会を成功に導いた。 ・稲本国体に各水域のレースマネジメント委員(7名)を派遣し、全国のレース運営のレベルアップを図った。 ・稲本国体を契機として、サポートチーム規程の作成に着手した。 ・団体委員会及び団体研修会に参加(ZOOM)し、次年度以降の大会の準備を行った。	Green
事業4) 外洋レース/大型艦レースの全国統一運用の普及					
ホームページの整備 連絡活動(IRU/ARPAの配信など) 遠征レース/大型艦レース運営に関する情報整理・提供 外洋ハンドレース運営に関する情報整理		適宜		ホームページの整備を実施し、外洋大型艦レース危機管理マニュアル等の情報提供を実施 IRU/ARPAの配信を行った 遠征レース/大型艦レース運営に関する情報整理・提供 ハンドレースは引き続き世界の情勢を調査し、今後の動向を確認しながら最適な大会運営の情報整理を進める必要がある。	Yellow
事業5) IROクリニック・セミナーの開催					
IROクリニック		2022/12/1	江の島	コロナ禍もあり開催回数に至らなかった。	Red
IROセミナー		2023/2/1	江の島	コロナ禍もあり開催回数に至らなかった。	Red
事業6) JSAF主催レースRO派遣					
JSAF主催レースレースオフィサー派遣			JSAF主催レース開催地	江の島オリビックワークハウス50名のレースオフィサーを派遣した。	Yellow
事業7) 国内国際レース開催の実施					
国内国際レースレースオフィサー派遣			国内国際レース開催地	広島で開催のハンザワールドヘルスマネジメント委員会より2名のスタッフを派遣した。	Yellow
事業8) 公認・後援する大会開催に関しての審査					
公認・後援する大会開催に関しての審査		2022/4~2023/3月末まで		2022年度は中止となるレースも少なく、ほぼ予定通りの審査数になった。但し大会の3か月前の申請に遅れるレースが数件あるため、2023年度も引き続き申請日を守って頂けるよう呼びかけを続ける。	Yellow
事業9) 全国レースマネジメント委員会の開催					
全国委員会の開催		1回実施	未定	12月札幌にて全国委員会を開催し、今年度事業の報告及び来年度事業に関する協議・検討を行った。	Green
委員長・小委員長会議の開催		1回実施	関東近郊	3月東京にて前委員会の継続協議事項について、再度協議を行った。また来年度開催するセミナー・クリニックで使用する教材編纂会議を行った。	Green

ワンデザインクラス計画委員会 委員長 中村和哉

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
委員会基本活動	【基本方針】2.4 【重点施策】Ⅱ(h)(x)	通年		各事業の推進を管理し推進すると共に、委員会全体の課題に対して取り組んだ。次年度もより精度高く、すみやかな業務を行う。	Green
規則管理	【基本方針】2.4 【重点施策】Ⅱ(h)(x)	通年		WSから発行される計測関連の情報を提供する。次年度からはルール改正に備えた準備も行う。	Green
公式計測員管理	【基本方針】2.4 【重点施策】Ⅱ(h)(l)Ⅲ(m)(n)	通年		公平で公正な計測を確保するため公式計測員の資質向上・養成。クラス協会と連携し推進した。次年度も同様に行う。	Green
IM養成支援	【基本方針】2.4 【重点施策】Ⅱ(h)(x)Ⅲ(m)(n)	通年		IMの養成と計測技術の向上支援を目指しているが、具体的な活動はできなかった。次年度での実施を目指す。	Red
IHC管理	【基本方針】2.4 【重点施策】Ⅱ(h)(x)	通年		IHC制度の管理と運用を行った。引き続き管理業務体制を維持していく。	Green
団体計測	【基本方針】2.4 【重点施策】Ⅱ(h)(x)Ⅲ(m)(n)	通年	栃木県(千葉県)	とちぎ国体における大会計測で精度を管理し公平公正な計測を行った。次年度は鹿児島国体、佐賀リハーサル大会での管理・支援を行っていく。	Green

普及指導委員会

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
事業1) 専門科目講習会の開発/改定					
・コーチⅡ～Ⅳ専門科目講習会プログラム改善	基本方針: 1.2.4 重点施策: I.a.f,Ⅲk,m	～9月上旬	-	JSAF指導者の行動指針や行動規範実現のため、「JSAF指導者育成体系」に基づいて2020-21年度に実施したコーチⅡ～Ⅳプログラムを受講者やコーチデベロッパーの詳細に基づき、コーチⅡについて、最終版完成に向けたブラッシュアップを行った。来年度は、この改定に基づいてコーチの最終版に向けたブラッシュアップを行う。	Green
事業2) 公認指導者の養成					
・コーチⅡ専門科目講習会開催実施	基本方針: 1.2.4 重点施策: I.a.f,Ⅲk,m	前期: 10月29-30日 後期: 11月19-20日	前期: 2日(オンライン) 後期: 和歌山SC	プレイヤーの成長性やセーリング継続性の向上を前提としたクラブシニアコーチ(コーチⅡ)講習会を実施。申込24名のうち、20名が修了。指導者自身の成長を促し、質の高い指導者に向けた育成を実施した。来年度も、継続して実施する。	Green
・更新講習会の開発	基本方針: 1.2.4 重点施策: I.a.f,Ⅲk,m	-	-	リソースが確保できず、更新講習会を企画立案を中止した。来年度は、スケジュール調整を行い、コーチとしての学びを継続する場の提供のため、4時間/回の企画開発にチャレンジする。	Red
・指導者更新講習会の実施	基本方針: 1.2.4 重点施策: I.a.f,Ⅲk,m	-	-	更新講習会を企画立案の中止に伴い、実施も中止した。来年度は、スケジュール調整を行い、新規に作成した更新講習会を、639名の既存の資格保有者を対象に募集し、応募に合わせて3回程度実施する。	Red
・JOCコーチアカデミーの展開	基本方針: 3 重点施策: Ⅲj,k,l,m,n	募集: 3月 推薦: 4月 承認: 5月	-	JOCコーチアカデミー研修について、今年度からオリンピック強化委員会所轄の移管を受け、JSPDの指導者資格と連動した募集を行い、オリンピック強化委員会と調整のうえ4名を申請し、全員承認された。来年度も、継続して実施する。	Green
・コーチデベロッパー育成	基本方針: 1.2.4 重点施策: I.a.f,Ⅲk,m	7月、8月、10月、11月	東京	指導講師の継続的コーチングスキルやノウハウの向上を図るため、外部講習参加(1件)、関係書籍や教材の購入や共通科目への講師派遣(1名3件)などを行った。	Green
事業3) 公認指導者の継続的レベルアップ					
・更新研修の受講促進	基本方針: 1.2.4 重点施策: I.a.f,Ⅲk,m	6月/12月	-	JSAF指導者の資格継続のため、および学びの継続ができるように指導者資格更新に必要な講習会案内を行った。	Green
・指導者リストの管理/メンテナンス	基本方針: 1.2.5 重点施策: I.a.f,Ⅲk,m	10-3月	-	本人がマイページから確認できるようにするとともに、JSAF会員管理システムに登録し、会員登録継続に貢献した。	Green
・公式Web委員会ページの管理/メンテナンス	基本方針: 1.2.6 重点施策: I.a.f,Ⅲk,m	都度	-	委員会ページの活用促進を図るため、指導方法やコーチング成功例などの掲載や記載内容の最新化を図る。また、指導者の悩み事を解決したり、新情報を取得できる場(コミュニティ)を提供した。	Green
事業4) 育成教材の企画・開発					
・セーラー用教材の企画開発	基本方針: 1.2.4 重点施策: I.a.f,h,j	2月	鹿児島県	選手向けの学習教材の提供を通じて、セーリングを楽しみ、続けやすくするための教材研究及び資料素材の提供を行なった。次年度は資料素材を加工し、選手向けの学習教材の提供を目指す。	Yellow
・指導者用教材の企画開発	基本方針: 1.2.4 重点施策: I.a.f,h,j	2月	福岡市ヨットハーバー	指導者向けの指導教材の提供を通じて、選手がセーリングを楽しみ、続けやすくするため、安全とスキルアップの領域を設け、安全についての教材研究及び資料素材の提供を行なった。次年度は、資料素材を加工し、指導者向けの学習教材の提供を目指す。	Yellow
事業5) 安全情報の管理と展開					
・事故やヒヤリ/ハット情報を収集と情報展開	基本方針: 1.2.4.10 重点施策: I.a,Ⅱf,h,j	都度	-	事故報告書回収拡大に向け現場にメリットが得られるような施策の検討展開実施。	Green
・安全備品情報の展開	基本方針: 1.2.4.10 重点施策: I.a,Ⅱf,h,j	-	-	JSAF公式サイトの委員会ページを活用し、指導者の安全備品の活用や推奨を実施。来年度は実態調査を行い、安全備品活用の実行度向上を図る。	Green
・練習海面の安全基準チェックリスト雛形策定 ・活用ガイドラインの策定	基本方針: 1.2.4.10 重点施策: I.a,Ⅱf,h,j	都度	-	各地の練習海面の安全基準チェックリスト策定に向けたガイドランスを作成展開し、当該年度開始の指導者講習会でも周知徹底した。	Green
事業6) パジテスタ資格管理					
・パジテスタ検定実施状況管理	基本方針: 1.2.4.10 重点施策: I.a,Ⅱf,h,j	都度	全都道府県	47都道府県の検定実施状況の把握と入管理、40都道府県で80名を検定取得した。7団体が未実施(青森、秋田、福島、熊本、奈良、山口、熊本)。来年度は標準フォーマットのオンライン化を検討したい。	Green
・パジテスタ認定者リスト管理と会員DBリンク	基本方針: 1.2.4.10 重点施策: I.a,Ⅱf,h,j	都度	-	2022年度の認定者リストを作成し、年度会費入金状況を確認した上で、会員管理システムに登録、マイページから確認できるようにした。	Green
・パジテスタ検定員リストの整備	基本方針: 1.2.4.10 重点施策: I.a,Ⅱf,h,j	～9/末	全都道府県	2022年度の報告書に基づき、検定員リストをメンテナンスして、検定員の資格および会員登録状況の確認を実施した。	Green
・パジテスタ規定の一部改定	基本方針: 1.2.4.10 重点施策: I.a,Ⅱf,h,j	～3/末	未定	ジュニアのスタートセーラーを対象に、楽しくセーリングを上手にできるように、パジテスタの初級領域を習得するための新しい検定システムを検討したが、まだ完了していない。来年度は、日本OP協会と共同で構築するトライアルを実施する。	Yellow
・パジテスタ検定員の資格要件の検討	基本方針: 1.2.4.10 重点施策: I.a,Ⅱf,h,j	～3/末	-	上記に基づき、検定員の資格要件を検討中。2023年度以降の検定員資格規定化に向け、上記のトライアル結果を踏まえて、検定員の資格要件案を策定し、実用性について全国に打診する。	Yellow
事業7) Start Sailing協会と価値の可視化					
・Start Sailingの推進	基本方針: 1 重点施策: I.a	6-9月	公式サイト/SNS	「海と日本プロジェクト」について、公式サイトやSNSを使って、セーリングを開始するために必要な情報(コンテンツ)を作成し、タイムリーに提供した。	Green
・Start Sailing現場の把握と情報展開	基本方針: 1 重点施策: I.a	6-9月	-	リソースが確保できず、「海と日本プロジェクト」以外のStart Sailing情報の収集展開の仕組構築ができなかった。来年度は、全国でセーリングを開始できる場所や環境の情報を収集し、上記情報と一緒に提供できる仕組構築の再チャレンジを行う。	Yellow
事業8) 加盟する団体の普及活動支援					
・「海と日本プロジェクト」企画申請と参加団体実施支援(日本財団委託事業)	基本方針: 1.2.4.6.10 重点施策: I.a,Ⅱc,f,g,h,j	開催実施6～8月 企画申請10～11月	実施: 12団体/14地区/49回 申請: 13団体/15地区/53回	2022年度の海の日の前後の時期に、コロナ指でも実施できるような、少人数かつ短時間で完了するイベントを多施設で実施できるイベントを全国に展開する。これにより、加盟する団体の活性化と普及活動の促進に寄与する。また、来年度に向けて、Start Sailing活動が継続して実施できるように2023年度企画書提出し、助成承認を得た。	Green
事業9) イベント企画・展開					
・ポトショ- JSAFブースの企画と実施	基本方針: 1.2.4.6 重点施策: I.a,b,Ⅱc,f,g,h,j	3月31日-4月3日	パシフィック横浜	2022年は近隣の中学校への来場勧誘を行い、新しく興味を持ってブースに来場した子供と保護者に対し、夏の開催イベントへの興味喚起を行い、新規参加者候補やセーリングファンを獲得した。2023年3月に実施予定のポトショについては、企画、および準備の途中までは実施したが、2月に担当が外れた。	Green
事業10) JSAF国際人材育成制度の策定					
・JOC国際人養成アカデミー	基本方針: 1.2.4.8.9 重点施策: I.a,b,Ⅱc,f,g,h,Ⅲo	募集: 3月 推薦: 4月 承認: 5月	-	これまでの修了者たちを中心にJSAFとして国際人育成(バスウエイ)、各事業の特性に合わせた募集要件などを検討。今年度に向けた推薦のための募集を行い、1名が応募し、面接を実施し、1名を推薦し、JOCに採択された。来年度に向けて募集をかけ、1名(3/10日締切時点)応募があり、3/22に面接実施し、3/31JOCに推薦完了。	Green
事業11) JSAF国際人材育成制度の展開					
・JSAF国際人材の募集推進	基本方針: 1.2.4.8.9 重点施策: I.a,b,Ⅱc,f,g,h,Ⅲo	-	-	World Sailingのスカラシップ、JOC国際人材海外派遣事業、スポ庁国際競技団体派遣事業などの募集を受け、会員に対して情報展開を行った。	Green
事業12) 委員会活動の活性化促進					
・委員会メンバーの成長支援と拡大	基本方針: 1.2.4.8.9 重点施策: I.a,f,h,j	-	-	各項目で、各リーダーがリーダーシップを発揮して活動するように体制を推進。次期委員長の育成を行い、来年度からバトンタッチする。	Green

国際委員会 委員長 堀川郁子

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
国際機関ポスト獲得-国際会議派遣	基本方針: 3.4.9 重点施策: m.o	通年	アラブ首長国連邦	IFの申請案書及び年次案書にJSAF専門委員らが派遣した。 ・国際社会における日本の地位向上をはかった。 ・国際機関の意思決定において、情報を収集し、他国と協調・連携し、アジア及び日本の利益を反映させるよう努めた。 ・収集した国際機関や他国NFの情報を連盟の常任委員会・専門委員会等に共有し、各部署の活動に役立ててもらった。	Green
スポーツ外交事業	基本方針: 9 重点施策: なし	通年	パラオ共和国	パラオ共和国に機材輸送による支援を実施した。 ・同国との親交を通じて国際社会における日本の地位向上をはかった。	Green

医事・科学委員会 委員長 高橋正貴

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
事業1) セーリングスポーツの普及・発展(一般への認知向上)					
普及指導委員会、団体委員会、オリンピック強化委員会との連携 アウトリーチ活動の推進		通年			Yellow
事業2) セーフティセーリングの推進(セーリングの普及)					
選手の健康管理、外傷予防に関する相談への対応		通年			Yellow
競技会における安全体制の指導、助言		通年			Green
安全講習及び公認コーチ講習に講師の派遣		通年			Yellow
事業3) セーラーの育成と強化					
選手の健康管理、外傷に対する相談への医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養師、トレーナーによる対応。LINE、メールによる対応。		通年			Green
海外派遣選手に対する医学的指導、および選手、コーチからの相談・要望に対するLINE、メールによる対応		通年			Red
事業4) 社会との連携					
ワールドセーリング医事委員会との連携 (メディカル・インフォメーション)		適宜		WhatsAppにより、各ナショナルメディカルチームと連携	Yellow
事業5) 組織体制の整備・強化					
委員の増員、委員会組織の見直し		適宜		委員会内に専門部会(医科、歯科、薬剤、看護、栄養、トレーナー、アンチドーピング)の設置	Green
医事科学委員会の開催		5月、11月(2022年は+1月)		医事科学委員の連携、新委員の任命	Green
事業6) アンチドーピング対策					
アンチドーピング小委員会が対応		通年		ドーピング検査に対するNAとして参加	Green
				選手、コーチ、監督、指導者へのアンチドーピングの指導・啓蒙	Green
事業7) トレーナー部会					
2022年度医事科学委員会トレーナー部会連絡会議		2022年11月頃を予定	オンライン開催	トレーナーの情報共有および連携強化	Green
事業8) 公認医事・パラメディカル資格の推薦、取得の推進					

		各資格申請時期	公認スポーツドクター、公認スポーツデンティスト、公認スポーツファーマシスト、公認スポーツ栄養師、公認アスレチックトレーナー養成講習会受講のJ-SPOへの推薦および更新の手続き	Green
			公認スポーツドクター推薦は毎年2、3人予定	Green
			公認AT、1人推薦予定	Green

団体委員会 委員長 黒川 寛男

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
事業1) 団体開催事業 ・中央競技役員・中央競技役員会の派遣 ・団体運営方針に則った、現地主催団体との調整・協議 ・参加船・運搬船の安全対策の推進 ・一般の認知・関心の向上に向けた「見える団体・見せる団体」推進 ・「残したいのほきいな海」をスローガンにした環境啓蒙活動の推進 ・開催地でのセーリングスポーツの普及推進 ・少年種目(中三)参加の促進	【基本方針】2,3 【重点施策】Ⅲ(c)(k)	2022年9月～10月	栃木県 (千葉県千葉市稲毛ヨットハーバー)	・栃木県セーリング競技会に申し、栃木県、栃木県セーリング連盟及び開催地の千葉県セーリング連盟に対し支援を行い、大会の円滑な実施を図った。コロナ禍での3年振り開催となったが、全体としては円滑に運営が出来た。 ・大会3日目の強風時のレース運営において、沈黙が続いたため救助が促されるなど救助体制に大きな課題が残るとともに、運営権が燃料切れで継続不能となり、消波ブロックに打ち上げられる事故が発生するなどの課題が残った大会となった。	Green
事業2) 団体開催準備支援事業 ・円滑な大会運営を目的とした研修会開催 ・団体運営方針に則った、現地主催団体との調整・協議 ・中央協議団体としての団体開催予定地の視察、団体開催に関する指導・助言 ・開催予定地による団体準備の支援 ・開催予定地での行政・セーリング関係者向け合同研修会の開催	【基本方針】2	2022年4月～2023年3月	・栃木県 ・鹿児島県 ・佐賀県 ・滋賀県 ・青森県 ・宮崎県 ・長野県	・団体委員会及び団体研修会を通じて、大会開催予定自治体及びセーリング連盟への指導、助言を行い、今後予定される団体(国スポ)セーリング競技会の円滑な開催準備の支援を行った。	Green
事業3) 団体開催関連事業 ・県名・件番号の販売料	【基本方針】2	2022年7月～9月		・見える団体、見せる団体に資するため、セールへの県名表示を実施した。今年度は、昨年、一昨年の大会が大会直前に中止及び延期になったため、県名・県番号を購入済みの県が多く、例年に比較すると販売数が減少した。	Green

オリンピック強化委員会 委員長 宮本 貴文

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
事業1) 2024パリオリンピックに向けた選手強化 強化対象選手の海外主要大会(種目別ワールド、種目別欧州選手権等)への派遣 強化対象選手に対する国内練習会・合宿の実施	もっと強くなる	各主要大会開催前の現地練習期間を含む大会開催期間	各主要大会開催地	強化対象選手のカテゴリ別に補助内容を差別化し、主にNT-A、NT選手と全日本選手権で好成績を収めた選手に対して海外大会遠征の補助を実施した。(NT-A:世界選手権含む海外大会3回、海外各宿1回、NT:世界選手権含む海外大会2回、海外各宿1回、全日本で勝利したシニア強化選手:世界選手権1回) また、アジア大会代表選手に対しては、上記に加え海外大会2回分の補助を実施した。 次年度については補助金が50%以上削減されること、Paris2024が1年後に迫っていることを勘案、更に対象選手を厳選したかたちでの遠征補助を行っていく。	Green
事業2) 2022アジア大会に向けた環境整備 アジア大会直前の現地練習会および現地での競技環境整備	もっと強くなる	9月	中国・杭州	期中に延期が決定、2023年9月の実施に向けて、観望準備中	Red
事業3) 2028ロスオリンピックを含む次世代アスリートの発掘・育成・強化 有望なユース選手に対する「HOPE育成プログラム」の実施 有望なユース選手の海外主要大会(種目別ユースワールド等)への派遣 国内での練習会、合宿、コーチ派遣等の実施	もっと強くなる	約1週間/月	和歌山NUTC、沖縄(冬季)	コロナでの中止を除き、予定通り1回のペースで開催した。1月からは選手のレベルに応じてBasicプログラムとAdvanceプログラムの2本立てで実施している。引き続きプログラム内容のブラッシュアップを図る。 WSユースワールドを始め、各クラスワールドについて派遣を実施。今後についても継続的に派遣を実施していく予定であるが、クラスによっては協会から推薦される派遣選手のレベルにバラつきがある為、目標の共有をししっかりと行い、将来の強化に繋がる選手を輩出していけるよう協会との連携を図っていく。	Green
事業4) 強化活動に関連した外部団体・委員会との連携による強化環境の構築 JSAF各委員会(レースマネジメント、ルール、普及指導等)の専門スタッフ参加による、高レベル環境下での練習会・合宿の実施	もっと強くなる	随時	和歌山NUTCを含む、各水域	HOPE育成プログラムや各クラス別合宿において、他委員会との連携によるスタッフの派遣を実施し、環境構築を行った。今後は特に医事科学委員会・ルール委員会との連携を強化し、ルール、フィジカル・メンタルトレーナー、栄養士等との連携を強化していく。	Green
事業5) 外部団体等との連携によるパフォーマンス評価の実施 フィジカル、GPSトラッキングや、風、潮流等、レースに勝つために必要な情報を提供してくれる外部企業・団体との協業	もっと強くなる	随時	-	フィジカルについてはNTCIにおけるげんき開発研究所及びトレーナーと連携しHOPE選手のデータ蓄積、メニューの開発等を実施。その他については2022年度については有効活用までに至らず、2023年度にParis2024メダル獲得PT内で取組予定。	Yellow
事業6) 選手が持つべき社会的責任の啓蒙活動の実施 コンプライアンス、危機管理、ドーピングコントロールなどの情報の入手と選手・コーチへの提供	もっと強くなる	随時	-	JOCの教材活用や外部講師の招聘等によって、コンプライアンス、危機管理、ドーピングについての講習を随時実施した。23年度も同様の手法で啓蒙活動を継続していく。	Green
事業7) 選手の発信力向上活動 普及マーケティング戦略プランに基づき、戦略チームとの協業による、選手の発信力向上トレーニングを実施	もっと身近になる			NT選手を対象としたメディアトレーニング講習を実施し、メディアデー等の実際の取材機会においてスキルを活用できた。2023年については予算との兼ね合いを見つづ、更に展開を検討していきたい。	Green

ジュニアユースアカデミー委員会 委員長 中村 公俊

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
事業1) テキストの発行 シーマンシップをジュニア及びユースセーラーの活動に置き換えて、分かり易く解説するテキストを発行し、必要とする選手、指導者、関係者に広く配布する。	【基本方針】2,3,4,6 【重点施策】I a, II c, g	通年	希望する関係者、関係団体	シーマンシップは競技力や勝利率を超えたセーリングの価値を端的に表しているのが競技者や愛好家への啓発だけでなく海に関心や興味がある人たるを広くセーリングに誘う普及効果も期待できる。 R4年度は予定の全15回を達成したため、広く全国のジュニア・ユースセーラーとその指導者・関係者への啓発が進んだ。 一方で未開拓の県や市町もまだまだ存在するので営業力・展開力アップが課題である。	Green
事業2) アカデミーコーチバンクの構築 歴代のオリンピックに加えオリンピック種目でナショナルチームに在籍した選手、コーチを対象として、セーリング活動を継続するしないに関係なく賛同者をアカデミーコーチに登録する。	【基本方針】4,8 【重点施策】III m, q	通年		本事業へのコーチ登録はトップ競技者がセーリングに関わり続けるきっかけ作りとして期待できるほか、それぞれの経験や多岐にわたる情報をレガシーとして次世代のノウハウ構築に生かす効果が期待できる。 R4年度は述べ13名のオリンピックやNT経験者の協力を得て全15回のアカデミー・事業へコーチを派遣することができた。特に課題はないが、新たなコーチ候補への積極的な声かけを行い、まずは当初の成果目標を推進する。	Green
事業3) アカデミーコーチの派遣 ジュニア及びユースセーラーとその指導者を対象として、全国の水辺にアカデミーコーチを派遣し、シーマンシップを啓発する。	【基本方針】2,3,4,6 【重点施策】II c, g, III m, q	通年	ジュニア及びユースセーラーが活動する全国の水辺	アカデミーコーチが派遣された全国の水辺で活動するジュニア・ユースセーラーのシーマンシップへの理解が深まるとともに、セーリングへの意欲が高まり競技力を向上させるきっかけ作りが期待できる。 R4年度は全15回500名を超える参加者へのコーチングが実施され競技力向上へのきっかけ作りが大いに推進された。 一方で未開拓の県や市町もまだまだ存在するので営業力・展開力アップが課題である。	Green

キールボート強化委員会 委員長

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価

国際大会等準備委員会 委員長 中村 隆夫

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
事業1) オリンピック強化委員会への活動支援	III, j, k, n, p			当初予算より減額して実施。	Yellow
事業2) レースマネジメント委員会への活動支援	III, j, k, n, p			当初予算より減額して実施。	Yellow
事業3) eSailing委員会への活動支援	I a, b, II e, f, III k, o			実施せず。	Red
事業4) 団体委員会への活動支援	I a, b, II e, f, III k, o			実施せず。	Red
事業5) 環境委員会への活動支援	II c, g			実施せず。	Red
事業6) 障がい者セーリング推進委員会への活動支援	I a, II d, e, III o			当初予算より減額して実施。	Yellow
事業7) 広報委員会への活動支援	I a, II f, III m, p			当初予算どおり実施。(但し年度末時点で振替未実施)	Green
事業8) 江ノ島オリンピックウィーク兼アジアカップの運営資金マネジメント支援	II d, e, III j, o			事業規模を縮小して実施。	Yellow
事業9) ハンザ・ワールド兼アジアパシフィック選手権の運営資金マネジメント支援	II d, e, III j, o			概ね当初予算通り実施。	Green

外洋常任委員会 委員長 中澤 信夫

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への展開等	達成度評価
事業1) セールンナンバー普及拡大事業					
全国の大型艇・外洋艇にセールンナンバーをつける。 外洋艇のセールンナンバーの適用範囲を広げ、組織の拡大強化に資する。 その実務を行うために艇登録事務局を設置する。 セールンナンバー普及拡大に合わせ、各地のハーバーや泊地での安全・ルール関係の活動を支援する。	基本方針2、8 重点施策I (a)、II (f)、(g)、(h)、(i)			外洋艇登録の推進を図った。 2022年度登録艇数 ・JSAF会員艇数: 764艇 (前年752艇 +12艇) ・非会員艇数: 27艇 (前年8艇 +19艇) 合計艇数: 791艇 (前年760艇 +31艇) 各地のヨットクラブ、泊地クラブでの拡大をするためのスキームを作った。 セールンナンバーを持つ艇のミットとして、安全について、民間救助機関VANとのコラボレーションを図った。	
事業2) オフショアレース支援と世界選手権派遣事業					
オフショアレース支援と世界選手権派遣事業 2028オリンピック種目候補のキールボート・チームレースとオリンピック種目復活を目指すオフショアレースとその前哨戦の世界選手権を見据え、国内長距離オフショアレースおよびダブルハンドを中心とするショートハンドのオフショアレースの一層の活性化をはかると共に、世界選手権への派遣を支援する。 ・世界選手権へ選手を派遣する。(国内選考レース開催を含む) ・JSAF共同主催のバルレース等外洋レースを支援し、世界で戦える選手を育成する。 ・多くの外洋レースに、ダブルハンド・デビジョンを設定していく。 World Sailing、IRC、ORC等の各種会議への派遣、国際的な情報交換、情報収集 ・オフショアレースのための資格取得、サブハイルトレーニングなどのトレーニング、通信基盤などの整備、促進、実施を進める。	基本方針3 重点施策III (j)、(m)、(n)① ③ ④、⑤、(e)			①2022年は世界選手権は開催されなかった ②外洋ダブルハンド日本選手権2022開催 和歌山⇒湘南 200マイル 2022年5月1日スタート 4艇参加 ③外洋レース支援 各種外洋レースを支援 2022年の小笠原レースについては、全面支援 ④ダブルスの振興 外洋ダブルス日本選手権2022の開催(再掲) 全国の既存のレースへのダブルハンド・デビジョンの設置を求めた ⑤通信委員会の設置 ⑥World Sailing 認定のサブハイルトレーニング実施(3回実施) ⑦2022年小笠原レースでの外洋レース復活を見据えた外洋レース・キールボートレースのレベルアップを進めた	
事業3) 加盟団体との関係強化事業					
外洋加盟団体との関係強化を目的として、外洋加盟団体会長会議の開催による連携強化を図る	2022基本方針等にはない「安全」				
外洋加盟団体会長会議を年2回開催する。(9月、1月) 外洋常任委員会を開催する。(年7回程度) 外洋艇の技術系部門の強化を図るため、外洋合同委員会会議を支援する。				① 外洋加盟団体会長会議 10月1日 愛知県岡崎市 及びWEB併用のハイブリッドで開催 1月29日 JCSの会議室(東京)及びWEB併用のハイブリッドで開催 ② 外洋常任委員会(6回開催) 5月、6月、9月、12月、1月、2月 ③ 外洋合同委員会 2月4日開催	
事業4) 外洋艇安全確保推進事業					
外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進					
・外洋艇の安全確保、安全情報の交換 ・海上通信情報手段の発展に対応して通信組織の立ち上げと実施・検証を支援する ・ヨットに合わない法制度の改善を関係省庁・関係機関に要望する ・レースでの安全確保の指導 ・万が一のための主催者保険加入				①海上保安庁との安全等に関する情報交換 12月、1月 日本小型船舶検査機構JCIへは評議員を派遣、今後JSAF・JCI両者の連絡会を設置していくことで合意した ②通信委員会立ち上げ 外洋レース外洋クルージングでの安全強化に向け、将来の無線通信活動を強化していくため、通信部門を外洋安全委員会から分離独立させ通信委員会を設置した。 ③国交省、日本小型船舶検査機構への法制度改善の要望 小型船舶検査機構に、ヨットの国際標準に合う制度改正のための調査研究項目を要望した。 ④レースでの安全確保の指導 安全強化のため、サブハイルトレーニング、医療トレーニングを実施(再掲) 安全について、民間救助機関VANとのコラボレーションを図った(再掲) ⑤主催者保険の実施 主催者保険事業を進めた。	

外洋計測委員会 委員長 川合 紀行

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への展開等	達成度評価
事業1) IRC証書発行					
	【基本方針】4 【重点施策】II (f)			国内メインレーティングであるIRC証書(以下、証書)に関しては、証書取得艇数が増加(+30艇) テクニカルコミッティによるチェックは、適切に実施できた。 ※2022年IRC有効証書307枚	Green
事業2) ORC証書発行					
	【基本方針】4 【重点施策】II (f)			ORC証書(以下、証書)を発行に関して、発行枚数が前年を上回った。 データのチェックに関しては、年度後半に、体制の再構築を測ったところである。 現在、テクニカルコミッティの一部人材による、チェックを実施している。次年度はチェックに係わる人材の拡大が課題 ※2022年度ORC有効証書45枚、ワンガッタ証書2枚	Green
事業3) 普及活動					
	【基本方針】2.4 【重点施策】II (f)、III (e)	通年		IRC主体のデュアルコアラインシステムについては、地域により採用の偏りが課題。 TCOのシステムについては、定期的に更新し提供することができた。 IRC GOの日本国内での採用・検証に関して、今のところ大きな進捗はない。今後も最新の情報に注視しつつ課題としていく。	Green
事業4) 規則等の管理・運用、HPの活用					
	【基本方針】2.4 【重点施策】II (f)、III (e)			ルール変更、解釈変更について、適切に対応できた。 必要に応じて、日本語版の発行を行い告知できた。 HPについては、必要な情報を速やかに掲載し、情報公開できた。またバナー広告により運用資金の確保につなげた。	Green
事業5) 計測機材の管理維持					
	【重点施策】II (g)、III (e)		東海・関東	重量計測機材については、年次の校正を実施するなど、適切な維持管理ができていた。	Green
事業6) 計測技術の継承					
	【重点施策】II (g)、III (e)			計測マニュアル等の整備については、適時改訂、公開している。 新たな試みとしての計測ビデオ制作・整備は、進展がなく、引き続き取り組む。	Yellow
事業7) 国際会議への参加					
	【重点施策】II (h) II (i)	10月・11月	フランス・イギリス	10月(フランス)のIRCコンGRES。11月(イギリス)のORC会議については、リモートにより参加し、日本の状況報告、サブミッションの提出等を行った。	Green
事業8) JSAF専門委員会会議への参加					
	【重点施策】II (f)、II (h) II (i)	12月	未定	ルールの使用やレース運営等の温度差を無くし、より普遍的な共通認識を持つ為に各委員会の連携が必要となる。 EISや外洋艇に関する記載も増えて来ている現状での翻訳・資料制作に協力する。コロナ禍によるWeb会議の変更もありえる。	
事業9) 計測セミナー					
	【重点施策】II (f)、II (h) II (i)	2月	関東・関西	2022年12月新規IRC計測セミナー実施 2023年2月IRC更新セミナー実施(5日関東、11日関西) 以上により、更新33名、新規IRC計測員6名を認定 IRC計測員が現在1名のみで、次年度以降の新規養成が課題	Green
事業10) 外洋合同会議					
	【重点施策】II (f)、II (h) II (i)	2月	東京 琴の島マリーナ	2023年2月4日オンサイトとオンライン(ZOOM)併用のハイブリッド形式で開催となった合同委員会会議にて、ルール変更の解説とその周知に努めた。	Green
事業11) 委員会会議					
	【重点施策】II (h) II (i)	通年	基本はZoom	概ね毎月Zoomによる会議を行った。 業務遂行に必要な事情、ルールの解釈等について、意見交換、討議を行った。	Green
事業12) IRCオーナーズ協会との協力					
	【基本方針】2.4.5 【重点施策】II (f)、III (e)			IRCオーナーズ協会との協力については、特に問題なく連携してきた。	Green

外洋安全委員会 委員長 平出 眞

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への展開等	達成度評価
事業1) 外洋特別規定(Offshore Special Regulations)普及、外洋特別規定(Offshore Special Regulations)普及を目的として、規定の正しい理解と運用をはかる					
1. Offshore Special Regulationsの翻訳と国内規定策定		通年		日本語訳版を発行することで、OSRへの理解普及と促進を図った。	Green
2. OSR解説講習会の実施および講師派遣		2023年2月および加盟団体の要求があれば		要請無く未実施	Green
3. SNSなどを利用したOSR内容解説		通年	facebook上	実際のレース現場で体験したOSRへの誤解などを、SNSを用いてタイムリーにポイント解説することによりOSRへの理解普及と促進を図った。	Green
事業2) 安全航行啓蒙、航行時の事故防止および被害拡大防止を目的として、会員の安全航行に対する知識と意識の向上をはかる。					
1. 安全週間の実施		2022年4月、2022年10月		春と秋の2回、安全週間を設け、忘れがちな艇や装備の点検整備および乗員の訓練などを確実に実施するきっかけとして、安全航行に対する意識の向上を図った。	Green
2. 安全講習会への講師派遣		通年		要請無く未実施	Green
3. 安全航行に関わる諸法令の改正のための関係官庁に対する働きかけ		通年		国内承認認可の装備品や無線機器などを日本国内でも使用できるように働きかけることにより、セーラーの安全性の向上や活動費用の低減などを図った。	Green
4. 船舶安全航行に関わる情報収集および発信		通年		(公) 日本海難防止協会主催の「全国海難防止遠征活動」の実行委員や日本小型船舶検査機構の「評議員」に委員長が囃託し、関係官公庁との情報収集や上記諸法令改正の窓口として機能した。	Green
5. 事故啓蒙書(外洋艇関係)の収集・分析、事故予防に関する情報発信		通年		事故啓蒙書や事故の内容を集計・分析し、事故防止や被害の最小化の課題をとりまとめた。	Green
事業3) 外洋合同委員会会議、外洋レースの全国均一化を目的とし、レース主催者(加盟団体)が適切なレース運営が行えるようにレース主催者(加盟団体)のスキルアップを図る					
規則改定やレースマネジメントのポイントを1つの会議にて実施。		2023/2/4	オンサイト/オンライン併用開催	レース主催者に関する4委員会(レースマネジメント、ルール、外洋計測、外洋安全)が合同で実施。次回開催日は福岡。	Green

通信委員会 委員長 坂口 純治

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への展開等	達成度評価
事業1) 無線海岸局の管理					
・海岸局(VHF 71ch・74ch)の開設・維持・廃局認可審査 ・JSAF登録艇以外の船舶局(VHF 71ch・74ch)の加入認可審査	【重点施策】g、h、l、o	通年		JSAFの資産である海岸局チャンネルの活用を促進し、レース主催者の利用による便益性や安全性の向上を図る。 老朽化しつつある各海岸局設備の維持・更新について計画をたてる必要がある。	Green
事業2) 無線船舶局の普及					
・無線免許取得の補助(民間業者とタイアップして免許取得講習会費用割引)	【重点施策】l、o	通年		上記無線局使用に必要な無線士免許取得時の費用低減、レース参加者の利用による便益性や安全性の向上を図る。 コロナ禍で講習会自体が開催されなかったため、オンラインを活用した講習会などを積極的にご紹介する。	Yellow

障がい者セーリング推進委員会 委員長:高岡 慎行

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
事業1)パラリンピックにおけるセーリング競技の復活、パラ選手、コーチの育成及びJSAF公認大会開催に向けての環境整備しパラ競技の復活に寄与する					
(a)WS主催のPDPへの選手、コーチ派遣	【重点施策】Ⅱ(d)、Ⅲ(m)(n)(o)(p)	10月	広島	世界を目指す選手・コーチの育成と発掘を期待し広島PDPに選手1人とコーチ4人の派遣ができた。次年度は女性の選手、コーチの派遣をする。	Green
(b)JSAF公認の全日本選手権、地方大会等開催	【重点施策】Ⅱ(d)(e)(f)、Ⅲ(k)(m)(n)(o)	9月	東京	JSAFとしてパラ選手の世界派遣、パラと一体化した活動展開。会費のあり方の検討を目標にし、初めての公認全日本大会の開催ができた。会費については解決ができていなかったが来年度以降も適正な会費額を引き続き検討する。	Green
(c)パラセーリング国際大会の日本開催	【重点施策】Ⅱ(d)(e)(f)、Ⅲ(k)(m)(n)(o)	10月	広島	パラリンピック競技種目復活、選手の目標大会に向けてモチベーションを上げる効果を期待し広島での国際大会を開催し選手のモチベーションを上げた。また次年度以降も隔年での国際大会誘致を検討していく。	Green
(d)クラシファイアの育成	【重点施策】Ⅱ(d)(e)(f)、Ⅲ(k)(m)(n)(o)	通年	未定(オンライン講習もあり)	大会の国内体制充実、国際ネットワーク構築にも貢献、選手のプレゼンス向上を目標に初めて、全日本での国内クラス分けの実施、広島国際大会でのICの研修を持つことができた。国際ネットワークは次年度以降海外での大会にICを目指す会員を派遣していく。	Green
事業2)障がい者セーリングの普及推進、セーリングはインクルーシブなスポーツであり生涯楽しめるスポーツとして普及活動に寄与する					
(a)広報活動(JSAFホームページ活用)	【重点施策】Ⅱ(a)、Ⅱ(c)(d)(e)(f)(g)、Ⅲ(p)	通年		日本の活動状況を世界アビリティパラ復活に貢献、SNSを立上げ国内の情報発信を行う事ができた。次年度以降は現在のシステムを継続できる方法を検討していく。	Green
(b)企業等と障がい者セーリングの体験会・研修活動実施	【重点施策】Ⅱ(a)、Ⅱ(c)(d)(e)(f)(g)、Ⅲ(p)	未定(年3回)	東京	インクルーシブセーリングの普及及びセーリングを応用する個人・企業・団体の拡大が期待できる。回数は一度だけであるが外資系の会社と交流を持つことができインクルーシブセーリング活動のアピールする事ができた。次年度以降は全国各地でも同様な機会を作る。	Red
(c)視覚障害者セーリング体験会実施	【重点施策】Ⅱ(a)、Ⅱ(c)(d)(e)(f)(g)、Ⅲ(p)	未定(年3回)	三重	セーリングが誰もが出来る環境を整える。視覚障がい者だけの大会を行う事が出来来年度以降も継続したい。また、全国各地でも同様な視覚障がい者対応の体験会を開催していく。	Yellow
(d)全スポ大会でのセーリング競技採用活動実施	【重点施策】Ⅱ(a)、Ⅱ(c)(d)(e)(f)(g)、Ⅲ(p)	通年	団体開催県予定県	障害者セーリングを通しての社会参加が期待できる。全スポ大会での競技採用は現在難しい問題が多いが、各自自治体での障害セーリングの認知度を上げる催し物をすすめる。	Red
事業3)障がい者セーリングにおける強化推進、アスリートの強化育成及びコーチの育成環境の整備・提供をすすめる選手を取り巻く支援体制の構築に寄与する					
(a)強化種目の指定、強化フリートの指定し選手国際大会での順位向上をはかる。	【重点施策】Ⅱ(d)(f)(h)、Ⅲ(m)(n)(o)	年5回程度	普及強化推進拠点	選手強化環境の構築、選手強化、コーチ育成を掲げ障害者向けの艇を購入し選手発掘の環境を整える事が少し進んだが、強化選手の選手環境を整えずその練習はできなかった。次年度以降は選手選考を行い、国際大会への選手派遣を行う。	Red

eSailing委員会 委員長:風形 依子

事業内容	JSAF方針関連性	時期	場所	当初目標と年度末実績との比較、次年度への課題等	達成度評価
*eSailing普及及びセーリングイベント、大会等でのプロモーション活動	【基本方針】1.2 【重点施策】Ⅰ(a)(b)、Ⅱ(e)	通年	オンライン(開催会場)	・オンサイトによるイベント(ポードショー、フルウェーオン・オン・オンフェスティバル)、オンラインでSteering the Courseではオンラインで女子学生、OG中心に体験交流会実施。 ・アンケート調査の結果より、現役セーラー(Jr.ユース、高校生、大学生)や指導者のニーズに合わせた活用方法紹介のためU19,U16,U13ジュニアチャレンジの開催で体験、交流会実施。 次年度もイベント、大会の機会を増やしPRしていく。	Green
*「オープンエントリー練習会」企画運営、PR日曜 20:00からの練習会の開催 SNS等を活用し、ルール、戦略戦術の紹介 日本VIRクラブの練習会の紹介と連携	【基本方針】1.2 【重点施策】Ⅰ(a)(b)、Ⅱ(e)	通年	オンライン	・初めての人やレースに参加してみたい人、Jr.女性、身体状況問わずセーリング体験を楽しめるe-sportsとして日曜20:00からの「オープンエントリー練習会」を開催。 次年度は日本VIRクラブとより連携し、大会やイベント、戦略・戦術紹介やオンサイトイベントでの効果的なPRを行う。	Green
Japan cap 開催・支援 JSAF主催大会としての開催準備、支援	【基本方針】3 【重点施策】Ⅰ(b)、Ⅲ(f)(g)	5月～、8月	オンライン	・5月から日本独自のランキング開始と、8月にJSAF主催全日本大会開催を実施。 リアル全日本の日程変更によりeSailingの全日本とリアル全日本の開催日が重なったこともあり想定エントリー数に達しなかった。次年度は全日本のエントリー拡大に向け、開催日程調整と計画的な運営に努める。	Green
*ネーションズカップ参画支援 海外の情報収集、WSとの連携支援	【基本方針】3 【重点施策】Ⅰ(b)、Ⅲ(f)(g)	9～10月	オンライン	ネーションズカップ国別対抗戦に全日本とランキングからナショナルチームとして参戦しベスト8。 グループリーグの順位やSNSで活躍を紹介した。 日程が対戦国との調整の結果のため、事前準備期間確保が難しい状況ではあるが、次年度は日本選手の活躍やeSailingを情報発信し企業等協力体制拡大に向けSNSの他にメディアも活用していきたい。	Green
*運営人員拡大施策 レースセット、リザルト(SAIRANKS)、オンライン会場(Discordサーバー)での運営について、レースに参戦しながら各ポジション運営者を体験(実践)し新規運営人員拡大を図る	【基本方針】8 【重点施策】Ⅰ(b)(h)	通年	オンライン(開催会場)	委員会内運営とJVIRCと連携し運営を実施。 次年度はeSailingレース(大会・イベント)開催数を増やし、運営にも挑戦してもらえる機会を拡大する。	Green